

北杜市立小学校・中学校の適正規模・適正  
配置・通学区域等について答申

平成21年3月

北杜市小中学校適正規模等審議会

## 目 次

はじめに	2
審議会の経過	3
I 適正規模の基本的な考え方	5
(1) 教育環境としての学校規模	
(2) 適正な学校規模	
II 小学校の現状	6
III 中学校の現状	8
IV 北杜市における学校の適正規模	9
V 北杜市における学校の適正配置	
VI 小学校の適正配置の具体的方策	
VII 中学校の適正配置の具体的方策	10
VIII 通学区域について	
IX 児童・生徒の通学について	
X 適正配置の実施時期	
XI 答申実現に向けて教育委員会が留意すべき事項	
※ 備考 別表1について 教職員適正配置について	
おわりに	12

## はじめに

本審議会は、平成19年12月27日に北杜市教育委員会から次の事項を審議し、北杜市立小中学校の適正規模、適正配置・通学区域に関わる基本的な方向について提言するよう諮問を受けた。

- 1 小中学校の適正規模に関すること。
- 2 小中学校の適正配置に関すること。
- 3 小中学校の通学区域に関すること。

以上3項目の諮問を受け、教育委員会の説明及び資料に基づき慎重に審議を行った。

本市の小学校の児童は平成10年度の3,125人を、中学校の生徒は平成9年度の1,695人をピークに、減少傾向に転じ、平成19年度は小学校児童数2,513人、中学校生徒数1,373人とピーク時と比較すると小学校では約20%、中学校でも約19%まで減少した。

教育委員会が平成19年度に推計した資料によると、10年後の平成29年度の児童数は1,675人で31%減、中学校生徒1,028人で31%の減で推移し、地域によっては50%前後の減少が見込まれる小中学校があるとの報告も受けた。

学校別に見ると減少はするものの当面は1学年複数学級が維持できる学校と、小規模化が著しく進行し複式学級での運営を余儀なくされる小学校も出てきている。中学校においては、全教科の教員が配置できなくなる学校があり、学校規模に格差が生じるなど、教育の機会均等の観点から見て解決すべき問題が生じている。

それぞれの学校には、創設以来の歴史的経過と地域住民の様々な思いがあるが、新市誕生を機に社会の変化に対応した新たな学校づくりを目指し、学校の適正規模と配置について審議を重ねた。今後学校の適正配置等を議するに当たっては、保護者、地域住民などの関係者の意見を参考にし、学校現場や地域が混乱しないよう配慮することを望むところである。

本答申は、以上の視点でその結果をまとめたものであり、各関係者をはじめ、市民の理解と協力を得て、今後の教育行政に反映されることを期待するものである。

## 審議会の経過

- 第1回 平成19年12月27日
- ・市立小中学校の適正規模等の諮問
  - ・適正規模、適正配置の関係資料に基づく検討
- 第2回 平成20年2月14日
- ・適正規模の関係資料に基づく検討
  - ・小学校の適正規模の集約
- 第3回 平成20年4月24日
- ・適正規模の関係資料に基づく検討
  - ・通学区域の関係資料に基づく検討
  - ・中学校の適正規模の検討
- 第4回 平成20年5月23日
- ・中学校の適正規模の集約
  - ・小学校の耐震問題の検討
  - ・通学区域の関係資料に基づく検討
- 第5回 平成20年7月17日
- ・小規模・大規模校の視察、検討
  - ・未耐震小学校の視察、検討
- 平成20年8月21日～9月2日
- ・8地区保護者等へ審議会の経過報告及び意見・要望聴取
- 第6回 平成20年8月27日
- ・小学校の耐震問題の検討
  - ・適正配置の検討
- 第7回 平成20年10月23日
- ・長坂小学校の耐震対策を要望する中間報告提出
  - ・中学校の適正規模の確認
  - ・8地区報告会後の保護者アンケートの検討
- 第8回 平成20年11月20日
- ・小学校適正配置の検討

- 第9回 平成21年1月15日
- ・分科会にて小学校の適正配置の検討
  - ・小学校の適正配置の集約
- 第10回 平成21年2月19日
- ・中学校の適正配置の検討
- 第11回 平成21年3月19日
- ・増富小学校の集約
  - ・中学校の教科担任制の集約
  - ・中学校の適正配置の集約
  - ・通学区域の確認
  - ・答申(案)の集約

## I 適正規模の基本的な考え方

学校規模は、児童・生徒数、教職員数、教室数、学校敷地面積、校舎面積等によって表すこともできるが、一般的には学級数が学校規模を表し、また、学級数により教職員数や教室数が定まることから、本審議会では学級定員（1学級あたりの児童・生徒数）と1学年の学級数で学校規模の基準を定めることとした。

学級定員（1学級あたりの児童・生徒数）については「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律」に定められているが、国の方針で弾力的な運用が可能であることから、本審議会は1学級20人以上・1学年2学級以上を適正規模とした。

### (1) 教育環境としての学校規模

学校規模の大小は、教育指導や学校運営に様々な影響があり、児童・生徒数の減少は教育環境として好ましくなく、適正な規模を保つことが望ましいと考えられている。

よって現在、本市における小規模校の問題点について検討を行った。

小規模校においては、地域住民との結びつきが深められ、学校行事、環境整備等に意思の疎通が図られる。さらに児童・生徒一人ひとりの個性や特性に応じた指導や教職員、児童・生徒及び保護者の人間関係が緊密化し、家族的な雰囲気の中で学校生活が営めるというメリットが期待できる。一方、デメリットとしては、進級してもクラス替えもなく固定化された人間関係の中では、良い意味での競争心や社会性が育ちにくく、一定の集団を要する学校行事等の運営も困難である。また、学校全体の教職員数が少ないことから学校運営上の支障もある。特に教育指導面では、必ずしも小規模校が優れているとは言えず、適正規模の教育環境の下でも児童・生徒と教職員との信頼関係の構築により実現するものと考えられる。

さらに学校施設は、一定の児童・生徒の規模を想定して建設されており、学級数の減少に伴い余裕教室の有効利用を図ってきているが、極端に小規模化することは、施設の管理上からも問題が生じてくる。

以上のことから、教育活動を円滑かつ効果的に進めるためには、学校規模の適正化を図る必要があると判断した。

### (2) 適正な学校規模

学校規模が教育効果や学校運営に与える影響については、先に述べたところであり、本審議会では、小・中学校の適正規模についての考え方を審議する上で現行の法制度である「小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限り

でない」(学校教育法施行規則第17条)を参考とした。また、中学校においても同様(学校教育法施行規則第55条)を参考とした。

## II 小学校の現状

本市の小学校の児童は別表1のとおり、平成19年度現在 2,513 人で、5年後の平成24年度は 2,062 人で約18%の減少となっている。こうした児童数の減少が今後も進行することが予測される。

これから10年後の平成29年度は 1,675 人と約33%の減少となっている。

### ☆ 明野小学校

平成19年度現在 272 人、5年生が単級で他は2学級を有する全校11学級規模の学校であるが、5年後の平成24年度は 222 人約18%の減少となり、平成29年度には 164 人約40%の減少が予測される。

### ☆ 須玉小学校

平成19年度現在 350 人、全学年2学級で12学級と本市においては大きな規模の学校であるが、平成24年度は 287 人約18%の減少となり、平成29年度には 253 人約28%減と顕著な減少が予測される。

### ☆ 増富小学校

平成19年度現在9人、1・2・6年生が単学級で3・4は複式学級となっている。4年後の平成23年には下級生が転校し6年生2人となる可能性が強いことが確認される。

### ☆ 高根東小学校

平成19年度現在 145 人、6学級規模の学校であるが、平成24年度は 122 人約16%の減少となり、平成29年度には 101 人約30%減少し、1学年20名以下の学年が2学年と予測される。

### ☆ 高根西小学校

平成19年度現在 205 人、7学級規模の学校であるが、少子化が進む中でも、近年市営住宅の建て替え事業により、現状維持ができる部類に属する学校である。しかし、平成24年度には 185 人約10%減少し、平成29年度には 126 人約39%の減少が予想される。

### ☆ 高根北小学校

平成19年度現在 79 人、1学級の児童数は6～21人合わせて6学級規模の学校である。平成29年度には 57 人約28%減少すると予測される。

☆ 高根清里小学校

平成19年度現在 117人、1学級の児童数は17～23人合わせて6学級規模の学校であり、平成24年度には81人約31%減少し、平成29年度には68人約42%の減少が予測されるが、昭和49年に2校が統廃合した学校である。

☆ 日野春小学校

平成19年度現在81人、10人以下の学級を2学級有する全校6学級の学校であり、今後児童数は漸減し将来的に複式学級が予想される。

☆ 長坂小学校

平成19年度現在 196人、1学級の児童数は29～37人合わせて6学級規模の学校であるが、平成29年度には153人約22%と減少することが予測される。

☆ 秋田小学校

平成19年度現在86人、1学級の児童数は10～17人合わせて6学級規模の学校であるが、平成24年度には63人約27%減少し、平成29年度には57人約34%減少し将来的には複式学級となることが予測される。

☆ 小泉小学校

平成19年度現在89人、1学級の児童数は8～27人合わせて6学級規模の学校であるが、平成24年度には59人約34%減少し、その後児童数は漸減し複式学級となることが予測される。

☆ 泉小学校

平成19年度現在 227人、3・4・6年生が2学級の他は1学級で9学級規模の学校であるが、平成24年度には171人約25%減少し、平成29年度には143人約37%減少することが予測される。

☆ 小淵沢小学校

平成19年度現在 310人、12学級の規模の学校であるが、平成24年度には278人約10%減少し、平成29年度には236人約24%減少することが予測される。

☆ 白州小学校

平成19年度現在 187人、1学級の児童数は19～35人合わせて6学級規模の学校であるが、平成24年度には122人約35%減少し、平成29年度には93人約50%と減少することが予測される。



#### ☆ 武川小学校

平成19年度現在 160 人、1 学級の児童数は 21～33 人合わせて 6 学級規模の学校であるが、平成24年度には 140 人約 13% 減少し、平成29年度には 92 人約 43% 減少することが予測される。

### Ⅲ 中学校の現状

本市の中学校の生徒は別表1のとおり平成19年度現在 1,373 人で、5年後の平成24年度は 1,286 人で約 6% の減少となっている。こうした生徒数の減少が今後も進行することが予測される。

これから 10 年後の平成29年度は 1,028 人と約 20% の減少となっている。

中学校教育については、その成長段階を考えれば、教員の免許教科をそろえること。また生徒相互の社会性の育成、切磋琢磨ということからも、少なくとも同学年 3 学級編制、1 学級 30 人を超える学校であることが望まれる。

#### ☆ 明野中学校

平成19年度現在 129 人、1 学級の生徒数は 20～22 人合わせて 6 学級規模の学校であるが、平成24年度には 140 人約 9% 増加し、平成29年度には 106 人約 18% 漸減していくと予想される。

#### ☆ 須玉中学校

平成19年度現在 192 人、1 学級の生徒数は 28～34 人合わせて 6 学級規模の学校であるが、平成24年度には 196 人約 2% 増加し、平成29年度には 144 人 25% 減少すると予測される。

#### ☆ 高根中学校

平成19年度現在 306 人、1 学級の生徒数は 33～34 人合わせて 9 学級規模の学校であるが、平成24年度には 276 人約 10% 漸減しながら平成29年度には 238 人約 22% 減少すると予測される。

#### ☆ 長坂中学校

平成19年度現在 275 人、1 学級の生徒数は 29～32 人合わせて 9 学級規模の学校であるが、平成24年度には 225 人約 18% 減少し、平成29年度には 181 人約 34% と減少すると予測される。

#### ☆ 泉中学校

平成19年度現在 116 人、1 学級の生徒数は 20～33 人合わせて 5 学級規模の学校であるが、平成24年度には 124 人約 7% 増加するが平成29年度には 96 人約 17% 減少すると予測される。

#### ☆ 小淵沢中学校

平成19年度現在 156 人、1 学級の生徒数は 24～40 人合わせて 5 学級規模の学校であるが、平成24年度には 154 人約 1 % 漸減しながら、平成29年度には 143 人約 8 % 減少すると予測される。

#### ☆ 白州中学校

平成19年度現在 102 人、1 学級の生徒数は 27～39 人合わせて 3 学級規模の学校であるが平成24年には 97 人約 5 % 漸減し、平成29年度には 55 人約 46 % 減少すると予測される。

#### ☆ 武川中学校

平成19年度現在 97 人、学級の生徒数は 29～33 人合わせて 3 学級規模の学校であるが平成24年度には 74 人約 24 % 減少し、平成29年度には 65 人約 33 % 減少すると予測される。

### IV 北杜市における学校の適正規模

審議会では、望ましい学校規模の諸条件について検討を加えた上で、小学校においては同一学年において、学級編制替えが可能である 1 学年 20 人以上複数学級が望ましく、適正規模を「1 学級 20 人以上、1 学年 2 学級以上」を適正規模と考える。

中学校の場合は教科担任制がとられている関係上、同一学年の 1 教員 1 教科を担当することが望まれ、特に授業時間の多い教科については、教材研究などの授業の準備のためにも、各学校に複数の教員が配置されるのが望ましい。

また、中学校では生徒の興味・関心・意欲等が多様化する時期であり、選択教科等の学習、クラブ活動、学校行事等が一層重要な意味を持つことから、中学校においては小学校以上の複数学級の編制が求められ、1 学年 3 学級以上が必要と考え「1 学級 30 人以上、1 学年 3 学級以上」を適正規模と考える。

### V 北杜市における学校の適正配置

本審議会は次世代を担う子ども達の教育環境を整備進展させるためには、通学距離・通学時間を考慮した通学手段を確保し、適正な規模の小・中学校を配置することを最優先すべきであると考え。

### VI 小学校の適正配置の具体的方策

小学校においては適正規模の観点から学校配置の編制を行うものとし、通学手段等を確保し、既存の学校を利用した適正配置が望ましいと思われる以下のと

おりとする。

中期的整備展望に立ち、平成25年度までに高根地区の小学校においては、清里小学校を存続しつつ他の3校を統廃合し、合わせて2校とする。長坂地区は、日野春小学校・長坂小学校・秋田小学校を統合し、小泉小学校は、泉小学校・小淵沢小学校との複合学区を考慮しつつ、1校ないし2校とする。なお、I s 値 0.33 の長坂小学校後館については、特別教室等の対策を早急に講じることとする。

明野、須玉、泉、小淵沢、白州、武川の各小学校は現状を維持しつつ、中期的な整備が完了した時点で、市は第2次小中学校適正規模等審議会を立ち上げ、平成29年度を目標に更なる統廃合を目指し、市内6校程度とする。

但し増富小学校については、小学校の現状で述べたとおり卒業生を送る在学児童がいなくなる平成23年度以前に閉校とする。

## VII 中学校の適正配置の具体的方策

適正規模の観点から中期的展望に立ち、市内3校とし、既存の施設を利用した適正配置が望ましい。

## VIII 通学区域について

小・中学校の適正配置の具体的方策の組み合わせに、現状の通学区域の行政区単位で組み込むことを原則とする。ただし、通学区域が重複する複合学区は選択制を導入することが望ましい。

## IX 児童・生徒の通学について

小・中学校の適正配置に対応できる通学手段の確保として、スクールバス・路線バス利用等の通学バスシステムの構築を行い、児童・生徒の通学の利便性を図ることが望ましい。

## X 適正配置の実施時期

適正配置については、中期的時期を平成21年度以降、平成25年度までとし再編を図ることが望ましい。

## XI 答申実現に向けて教育委員会が留意すべき事項

1. 学校の適正配置は、保護者、学校関係者、地域住民、関係団体等の理解と協力が不可欠であり、早期に実施計画を策定し、円滑な事業実現に向

けて努力を払うこと。

2. 教育の水準の維持向上を目指し、きめ細かな指導ができるような環境整備に努めること。
3. 適正配置後、各学校の歴史や地域との関わりなど、学校関係資料を整理して保管すること。
4. 適正配置に伴う跡地等については、地域及び関係者と十分な協議を行い有効的な活用を検討すること。
5. 適正配置された校名については、旧町村にとらわれず、新たな校名について検討すること。
6. この答申は、適正規模、適正配置、通学区域を基本に検討してきたが、将来的に学級編制基準等に変化が生じた時、また、新たな課題等が表面化した場合には、速やかにその見直しを行うこと。

※1 各小中学校の児童・生徒数は、別表1のとおり北杜市教育委員会が作成した学校別児童・生徒数及び学級数の推計による。

※2 中学校の適正規模について

教頭及び教諭等の配置定数は、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」第7条により決められる。

具体的には、6学級の場合、 $6 \text{ 学級} \times 1.75 = 10.5$  で10人となる、9学級の場合、 $9 \text{ 学級} \times 1.72 = 15.48$  で15人となる。

中学校は、教科担任制を採用していることから、各教科に担任が配置され、授業数の多い教科に複数の教諭を配置するためには、15人以上の教諭の配置が必要である。

したがって、適正規模は、9学級以上が必要であると考えられる。

## おわりに

少子化が進行する中で、本市の小・中学校の児童・生徒の減少は今後も続くことが予測され、小規模化が学校運営や教育に与える影響は極めて大きいものとする。21世紀を担う子ども達の創造性豊かな人間育成のため、行政当局はもとより教育委員会においても最大限の努力を願うものである。

今回、小・中学校の適正規模・適正配置・通学区域等についての本審議会答申は、地域における問題点を十分聴取しながら慎重な対応を願い、教育行政の向上に鋭意努力されるよう強く望むところである。

なお、市立甲陵中学校については、併設型中高一貫教育校であるので審議対象からは除外した。

(別表 1)

## 学校別児童・生徒数及び学級数の推移(H19～H29)

学校名	年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
明野小	児童数	272	260	260	248	235	222	205	193	182	170	164
	学級数	11	10	10	9	8	7	6	6	6	6	6
須玉小	児童数	350	340	341	319	297	287	291	281	268	259	253
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	11	10	9
増富小	児童数	9	9	10	10	10	8	7	4	3	2	-
	学級数	4	3	4	4	4	3	2	2	1	1	-
高根東小	児童数	145	142	138	135	132	122	121	122	109	101	101
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
高根西小	児童数	205	209	198	203	192	185	170	154	140	123	126
	学級数	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
高根北小	児童数	79	86	91	79	85	80	77	66	58	58	57
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
高根清里小	児童数	117	105	102	94	85	81	74	74	69	67	68
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
日野春小	児童数	81	78	81	81	83	78	83	83	77	75	76
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
長坂小	児童数	196	184	185	183	173	166	153	155	146	147	153
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
秋田小	児童数	86	79	72	70	72	63	61	61	62	60	57
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
小泉小	児童数	89	88	81	60	58	59	53	46	49	53	56
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
泉小	児童数	227	209	214	196	178	171	182	178	153	148	143
	学級数	9	8	9	8	7	7	7	7	6	6	6
小淵沢小	児童数	310	301	294	285	281	278	283	271	258	247	236
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	11	10	10	9
白州小	児童数	187	172	165	148	137	122	117	102	101	93	93
	学級数	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
武川小	児童数	160	164	154	154	146	140	129	117	106	97	92
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
小学校計	児童数	2,513	2,426	2,386	2,265	2,164	2,062	2,006	1,907	1,781	1,700	1,675
	学級数	110	106	107	105	103	101	99	98	94	93	90
明野中	生徒数	129	139	134	140	131	140	132	129	120	116	106
	学級数	6	6	5	5	5	6	6	5	4	3	3
須玉中	生徒数	192	200	178	183	186	196	176	163	155	153	144
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
増富中	生徒数						統合					
	学級数											
高根中	生徒数	306	290	293	292	286	276	254	256	253	257	238
	学級数	9	9	9	9	9	9	9	8	8	9	8
長坂中	生徒数	275	271	255	250	224	225	202	205	194	192	181
	学級数	9	9	9	8	7	8	6	6	6	6	6
泉中	生徒数	116	123	126	128	127	124	99	82	90	97	96
	学級数	5	5	5	5	5	5	4	3	4	4	4
小淵沢中	生徒数	156	167	154	167	163	154	143	138	140	142	143
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
白州中	生徒数	102	111	98	107	90	97	80	82	68	68	55
	学級数	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3
武川中	生徒数	97	93	96	83	83	74	77	81	80	77	65
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
中学校計	生徒数	1,373	1,394	1,334	1,350	1,290	1,286	1,163	1,136	1,100	1,102	1,028
	学級数	47	48	47	46	44	46	43	40	40	40	39